

式 辞

日差しが日ごとに温かさを増し、校庭の桜のつぼみが膨らみ、春の到来を感じさせる今日この頃、PTA会長様 並びに長崎市立西山台小学校長様・長崎市立三原小学校長様はじめ地域団体の代表者の方々の御臨席を賜り、令和六年度第三十六回卒業証書授与式を挙行できますことを、ステージからではありますが、心から御礼申し上げます。

また、これまで、御養育に専念された保護者の皆様におかれましては、お子様の立派に成長された晴れ姿に感慨もひとしおのことと存じます。

義務教育九年間の全課程を終了した事を、心からお祝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

三年前入学式の際に、皆さんの代表の方は二つのことを決意されました。

一つ目は、**「勉強を頑張ります。」**でした。あの時は、特に理科を！と言われました。

二つ目は、**「コミュニケーションに気を付けます。」**でした。特に相手のことを考え行動しますとも付け加えていました。

これに対して、当時の校長先生の式辞では「本校の学校教育目標『己を磨く』の如く、涙が出るほどうれしい事や悔しい事をたくさん経験し、**本気で自分磨きを頑張ってください。**」と言われました。

さあ、中学校生活三年間、いかがだったでしょうか。振り返れば、中学校生活三年間、「コロナ感染症拡大防止」という言葉が付く生活からスタートしました。年を追うごとに、少しずつ改善され、今年度を迎えました。体育館での体育大会。駅伝競技を含めた中総体。合唱コンクールや連合音楽会。そして、先日の緑風祭。と本校のリーダとして、あるいは、本校の代表として、常に先頭で皆さん方は頑張ってきました。

普段の生活でも、**伝統である「レベル5の挨拶」「人前力」**というキーワードに、さらに、『臨機応変』という言葉をつけ加え、本校の発展に大いに貢献し**「本気の自分磨き」**に取り組みました。

諸外国では紛争が継続され、国内でも大きな災害や安全・安心を脅かす事件・事故が数多く発生しています。このような環境の中で、本校を巣立たれる卒業生の皆さんに、はなむけの言葉として、次の言葉を送ります。その言葉は、**「心を込めて」**です。

多くを学び、多くを経験し、コミュニケーションをしっかりととり多くの人とつながってきた皆さん、**「誰のために・何のために・どんなふうに」常に心を配り**、培ってきた英知を込めて物事にあってください。

思いやりがあり、調整力・実践力がある皆さんであれば、成果は更にあがると大いに期待しています。

それでは、三十一名の卒業生の皆さん、**三川中学校の卒業生として、誇りと自信**をもって、これからの人生をしっかりと歩み、益々活躍することを祈念して式辞といたします。

令和7年3月14日

長崎市立三川中学校 校長 神尾 進二